

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：アリ, ファテヘルアリム F. メールアドレス：ali@meior-u.ac.jp	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	4	313	火：10：40～12：10

### 1. 授業の概要

情報システム構築と活用（Web アプリケーション, 計算知能, ネットワーク等）に関する研究を行う。

### 2. 到達目標

明確な研究方法に沿って、研究目的を達成その研究成果は学会等に発表すること

### 3. 授業の計画と内容

前学期		後学期	
第1週	オリエンテーション	第16週	オリエンテーション
第2週	研究構想検討	第17週	研究中間報告
第3週	関連論文・文献レビュー	第18週	研究今後の日程
第4週	関連論文・文献レビュー	第19週	研究課題報告
第5週	関連論文・文献レビュー	第20週	研究課題報告
第6週	研究課題関連発表	第21週	研究中間報告
第7週	研究方法	第22週	研究中間報告
第8週	研究枠組みの検討	第23週	研究中間報告
第9週	研究枠組みの検討	第24週	研究中間報告
第10週	研究調査と基本データ収集	第25週	研究中間報告
第11週	研究調査と基本データ収集	第26週	研究中間成果発表
第12週	研究調査と基本データ収集	第27週	研究課題・成果報告
第13週	研究調査と基本データ収集	第28週	研究課題・成果報告
第14週	研究課題と計画	第29週	研究課題・成果報告
第15週	研究総合計画	第30週	研究まとめと報告

### 4. テキスト

各自の研究テーマに合わせて決める。

#### 参考文献

各自の研究テーマに合わせて決める。

### 5. 準備学習

自主的に研究を行なうこと。

M1 の研究成果が M2 において修士論文へと結実できる内容である。

### 6. 成績評価の方法

研究取り組み（10点）、研究内容（40点）、研究成果（50点）によって評価する。

### 7. 履修の条件：

特になし。英文購読の経験があることが望ましい。

### 8. その他

学会発表も目指すこと

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員: 宮平 栄治																																	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			メールアドレス: <a href="mailto:s.miyahira@meio-u.ac.jp">s.miyahira@meio-u.ac.jp</a>																																	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																
4	1	前・後	2～3	315	火・木 14:45～16:15																																
<p>1. 授業の概要  経営情報研究演習 I では、修士号学位請求論文に必要なテーマ選定、研究方法、参考文献収集の仕方、批判的読解および発表の方法を学ぶ。</p> <p>2. 到達目標  修士号学位論文は、対象となる学問領域の全体像を理解する。要素還元論に基づいて可能な限り原著論文を批判的読解後、同じテーマで論を展開、比較・検討することで先達の到達点、改善点等を学ぶことになるので、本講義において叙述の2点を到達目標とする。</p> <p>3. 講義予定</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">前期</td> <td style="text-align: center;">後期</td> </tr> <tr> <td>第1週</td> <td>第1週</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>第2週</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>第3週</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>第4週</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>第5週</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>第6週</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>第7週</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>第8週</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>第9週</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>第10週</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>第11週</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>第12週</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>第13週</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>第14週</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>第15週</td> </tr> </table> <p>4. テキスト  各自の研究テーマに沿った文献を指示する。</p> <p>参考書  各自の研究テーマにあった文献を指示する。</p> <p>5. 準備学習  演習時間までに原著論文の内容をまとめ、レジюмеにまとめる。</p> <p>6. 評価方法  ① 報告レジюме  ② 報告内容</p> <p>7. 履修条件  口頭発表の際は、レジюмеを用意する。</p> <p>8. その他  特になし。</p>						前期	後期	第1週	第1週	第2週	第2週	第3週	第3週	第4週	第4週	第5週	第5週	第6週	第6週	第7週	第7週	第8週	第8週	第9週	第9週	第10週	第10週	第11週	第11週	第12週	第12週	第14週	第13週	第14週	第14週	第15週	第15週
前期	後期																																				
第1週	第1週																																				
第2週	第2週																																				
第3週	第3週																																				
第4週	第4週																																				
第5週	第5週																																				
第6週	第6週																																				
第7週	第7週																																				
第8週	第8週																																				
第9週	第9週																																				
第10週	第10週																																				
第11週	第11週																																				
第12週	第12週																																				
第14週	第13週																																				
第14週	第14週																																				
第15週	第15週																																				

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：金城 亮	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			メールアドレス：a.kinjo@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	研314	火曜4限・木曜2限

### 1. 授業の概要

本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。修士論文執筆に備えて関連研究等の幅広いリサーチを行い、理論的枠組みの強化をはかる。同時に、修士論文研究に使用する妥当性・信頼性の高い調査尺度や実験課題等の収集／開発を行うために、予備的なデータ収集を実施する。さらに、種々の統計分析手法に関する理解を深めることを目的とする。

### 2. 到達目標

修士論文執筆に向けて、妥当性・信頼性の高い調査尺度や実験課題等の収集／開発を行いつつ予備的なデータ収集を実施する。さらにSPSS等の統計分析アプリケーションを研究目的に沿って使いこなせるようになる。

### 3. 授業の計画と内容

第1週	オリエンテーション	第16週	予備調査／実験データの収集①
第2週	研究テーマ・仮説設定	第17週	予備調査／実験データの収集②
第3週	研究テーマ・仮説設定	第18週	予備調査／実験データの収集③
第4週	課題関連研究の文献検索①	第19週	予備調査／実験データの収集④
第5週	課題関連研究の文献検索②	第20週	データ入力・集計①
第6週	課題関連研究の文献講読①	第21週	データ入力・集計②
第7週	課題関連研究の文献講読②	第22週	統計分析①
第8週	統計分析の基礎知識	第23週	統計分析②
第9週	統計分析ソフト：SPSSの使用法①	第24週	図表作成①
第10週	統計分析ソフト：SPSSの使用法②	第25週	図表作成②
第11週	尺度／実験課題の検討①	第26週	結果の解釈・考察①
第12週	尺度／実験課題の検討②	第27週	結果の解釈・考察②
第13週	研究計画の策定①	第28週	研究レポート作成①
第14週	研究計画の策定②	第29週	研究レポート作成②
第15週	研究計画の策定③	第30週	研究成果報告

### 4. テキスト

研究テーマに応じて適宜指定

#### 参考文献

研究領域に応じて適宜指定

### 5. 準備学習

自身の研究テーマに沿った先行研究の収集、講読を十分に行うこと。

### 6. 成績評価の方法

①ゼミ研究活動状況： 30点

②研究報告書等提出物： 70点

計 100点

### 7. 履修の条件：

- ・学群／学部における心理学関連科目の単位を履修済みであることが望ましい。
- ・学群／学部において心理学分野の卒業研究論文を執筆済みであることが望ましい。

### 8. その他

演習生には、受動的な研究姿勢に留まることなく、自らの問題意識、研究テーマの解明に向けて主体的・積極的に取り組んでいただきたい。

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：中里 収	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			メールアドレス：s.nakazato@mail.meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	312	火曜・木曜 3限 (13:00～14:30)

### 1. 授業の概要

本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといったコミュニケーションに関する現象を扱う。前半は主に文献研究、発表練習などをおこなう。後半はシステム設計、プログラミング技法、システム評価などについて演習する。

### 2. 到達目標

コミュニケーションシステムの開発を題材にして、実験計画、データ分析、プログラミング技法およびプレゼンテーション方法を習得する。

### 3. 授業の計画と内容

#### 前学期

第1週	オリエンテーション
第2週	文献検索方法
第3週	〃
第4週	文献研究・論文講読
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	レポート作成法
第10週	〃
第11週	プレゼンテーション練習
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第15週	〃

#### 後学期

第1週	回研究計画
第2週	システム設計法
第3週	〃
第4週	プログラミング方法
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	システム評価方法
第10週	〃
第11週	評価実験
第12週	〃
第13週	データ処理法
第14週	〃
第15週	〃

### 4. テキスト

講義の中で資料を配布する。

#### 参考文献

堂下 修司 他	「音声による人間と機械の対話」	オーム社	(4500円)
田窪行則 他	「言語の科学2 音声」	岩波書店	(3800円)

### 5. 準備学習

自分の修士論文研究の進捗状況を説明できるようにしておくこと。

### 6. 成績評価の方法

レポート課題 (50点) 発表内容 (50点) で評価する。

### 7. 履修の条件

プログラミングの経験があることが望ましい。

### 8. その他

特になし

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：木村 堅一	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I.			メールアドレス：k.kimura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	310	月曜日 3時限目 火曜日 3時限目

### 1. 授業の概要

本演習は、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。

### 2. 到達目標

社会心理学的な研究を行う上で必要な方法論に関する基本的な知識と技能を理解できる。  
自らの修士論文における研究計画の立案において、得られた知識を活用できる。

### 3. 授業の計画と内容

	前期	後期
第1週	各自の研究実績の紹介	予備実験あるいは予備調査 (1)
第2週	文献収集・先行研究の紹介 (1)	〃 (2)
第3週	〃 (2)	〃 (3)
第4週	〃 (3)	発表会リハーサル
第5週	〃 (4)	研究計画発表会
第6週	〃 (5)	データ収集 (1)
第7週	問題設定 (1)	〃 (2)
第8週	〃 (2)	〃 (3)
第9週	〃 (3)	〃 (4)
第10週	〃 (4)	〃 (5)
第11週	〃 (5)	論文添削 (1)
第12週	研究計画 (1)	〃 (2)
第13週	〃 (2)	〃 (3)
第14週	〃 (3)	〃 (4)
第15週	〃 (4)	〃 (5)

### 4. テキスト・参考文献

適宜、紹介する。

### 5. 準備学習

日頃から、自らの興味・関心あるテーマについて問題意識を深めておくこと。  
先行文献の収集・整理を行い、先行研究の成果や問題点をレビューしておくこと。  
研究計画を具体化すること。  
予備調査・予備実験のデータを分析しておくこと。

### 6. 成績評価方法

- ・論文本体 (50点)
- ・発表会 (50点)
- ・合計 (100点)

### 7. 履修の条件

特になし。

### 8. その他

特になし。

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：仲尾次 洋子	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information sciences I			メールアドレス：y.nakaoji@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	若干名	302	火2限・木1限

### 1. 講義内容

本演習では、会計分野（財務会計や国際会計）における文献研究を行うとともに、修士論文の作成方法を修得する。

### 2. 到達目標

修士論文のテーマに関する先行研究サーベイや論点管理がしっかりできていること。

### 3. 講義予定

前学期		後学期	
第1週	オリエンテーション	第1週	研究進捗確認
第2週	卒業研究の紹介	第2週	論文作成
第3週	文献収集	第3週	〃
第4週	先行研究サーベイ	第4週	〃
第5週	〃	第5週	研究計画発表会
第6週	〃	第6週	論文作成
第7週	〃	第7週	〃
第8週	〃	第8週	〃
第9週	論点整理	第9週	〃
第10週	〃	第10週	論文添削指導
第11週	問題設定	第11週	〃
第12週	研究計画	第12週	〃
第13週	論文作成	第13週	〃
第14週	〃	第14週	〃
第15週	前学期総括	第15週	後学期総括

### 4. テキスト

#### 参考文献

適宜指示する。

### 5. 準備学習

適宜課題を課す。

### 6. 成績評価方法

活動状況 40点

研究成果 60点

### 7. 履修の条件

簿記の基本的なスキルを有すること。

### 8. その他

特になし。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：アリ，ファテヘルアリム F. メールアドレス：ali@meior-u.ac.jp	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	4	313	火：10：40～12：10

### 1. 授業の概要

修士論文作成に向けた研究とその成果を発表し，修士論文を完成させる。

### 2. 到達目標

明確な研究方法に沿って、研究目的を達成その研究成果は学会等に発表すること

### 3. 授業の計画と内容

#### 前学期

第1週	オリエンテーション
第2週	研究実験とその成果の報告
第3週	研究実験とその成果の報告
第4週	研究実験とその成果の報告
第5週	研究実験とその成果の報告
第6週	研究実験とその成果の報告
第7週	研究実験とその成果の報告
第8週	研究実験とその成果の報告
第9週	研究実験とその成果の報告
第10週	研究実験とその成果の報告
第11週	研究実験とその成果の報告
第12週	研究実験とその成果の報告
第13週	研究実験とその成果の報告
第14週	研究実験とその成果の報告
第15週	研究実験とその成果の報告

#### 後学期

第16週	中間報告
第17週	中間報告
第18週	論文作成
第19週	論文作成
第20週	論文作成
第21週	論文作成
第22週	論文作成
第23週	論文作成
第24週	論文作成
第25週	論文作成
第26回	研究成果発表
第27週	研究成果発表
第28週	研究成果発表
第29週	研究成果発表
第30週	研究成果発表

### 4. テキスト

各自の研究テーマに合わせて決める。

#### 参考文献

各自の研究テーマに合わせて決める。)

### 5. 準備学習

自主的に研究を行なうこと。

M1 の研究成果が M2 において修士論文へと結実できる内容である。

### 6. 成績評価の方法

研究取り組み（10点），研究内容（40点），研究成果（50点）によって評価する。

### 7. 履修の条件：

特になし。英文購読の経験があることが望ましい。

### 8. その他

学会発表も目指すこと

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：宮平 栄治																																																																	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II			メールアドレス： <a href="mailto:s.miyahira@meio-u.ac.jp">s.miyahira@meio-u.ac.jp</a>																																																																	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー																																																																
4	2	通年	2～3	315	火・木 14：45～16：15																																																																
<p>1. 授業の概要</p> <p>研究演習Ⅱでは研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みから修士論文テーマに関する論文を作成する。修士論文の作成に当たって常に理論的枠組みのどの部分を体系立てているのかという全体と部分を意識し、また、現実との比較を通して、理論の限界を認識するとともに、理論化できない諸現象へのアプローチ方法も学ぶ。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>修士号学位請求に資する論文を作成する。そのためには、修士論文のテーマに即した原著論文を批判的に読解し、まとめ、課題等を発見する。</p> <p>3. 講義予定</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 35%; text-align: center;">前 期</th> <th style="width: 35%; text-align: center;">後 期</th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>関連論文文献研究と発表①</td> <td>第1回</td> <td>修士論文第1章報告①</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>関連論文文献研究と発表②</td> <td>第2回</td> <td>修士論文第1章報告②</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>関連論文文献研究と発表③</td> <td>第3回</td> <td>修士論文第2章報告①</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>関連論文文献研究と発表④</td> <td>第4回</td> <td>修士論文第2章報告②</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>関連論文文献研究と発表⑤</td> <td>第5回</td> <td>修士論文第3章報告①</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>テーマ選定と中間発表</td> <td>第6回</td> <td>修士論文第3章報告②</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>関連論文文献研究と発表⑥</td> <td>第7回</td> <td>修士論文第4章報告①</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>関連論文文献研究と発表⑦</td> <td>第8回</td> <td>修士論文第4章報告②</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>関連論文文献研究と発表⑧</td> <td>第9回</td> <td>中間報告</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>関連論文文献研究と発表⑨</td> <td>第10回</td> <td>修士論文結論報告①</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>関連論文文献研究と発表⑩</td> <td>第11回</td> <td>修士論文結論報告②</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>修士論文章立て</td> <td>第12回</td> <td>修士論文の全体構成確認①</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>修士論文章立てとクローキー</td> <td>第13回</td> <td>修士論文の全体構成確認②</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>修士論文章立てと具体例</td> <td>第14回</td> <td>修士論文の校正</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>修士論文の構成</td> <td>第15回</td> <td>修士論文結論報告①</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト</p> <p>各自の修士論文のテーマに即した文献を指示する。</p> <p>参考書</p> <p>修士論文のテーマに関する優れた先行研究を指示する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>演習時間までに原著論文の内容をまとめ、レジюмеにまとめる。</p> <p>6. 評価方法</p> <p>① 報告レジюме ② 報告内容</p> <p>7. 履修条件</p> <p>口頭発表の際は、レジюмеを用意する。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>							前 期	後 期		第1回	関連論文文献研究と発表①	第1回	修士論文第1章報告①	第2回	関連論文文献研究と発表②	第2回	修士論文第1章報告②	第3回	関連論文文献研究と発表③	第3回	修士論文第2章報告①	第4回	関連論文文献研究と発表④	第4回	修士論文第2章報告②	第5回	関連論文文献研究と発表⑤	第5回	修士論文第3章報告①	第6回	テーマ選定と中間発表	第6回	修士論文第3章報告②	第7回	関連論文文献研究と発表⑥	第7回	修士論文第4章報告①	第8回	関連論文文献研究と発表⑦	第8回	修士論文第4章報告②	第9回	関連論文文献研究と発表⑧	第9回	中間報告	第10回	関連論文文献研究と発表⑨	第10回	修士論文結論報告①	第11回	関連論文文献研究と発表⑩	第11回	修士論文結論報告②	第12回	修士論文章立て	第12回	修士論文の全体構成確認①	第13回	修士論文章立てとクローキー	第13回	修士論文の全体構成確認②	第14回	修士論文章立てと具体例	第14回	修士論文の校正	第15回	修士論文の構成	第15回	修士論文結論報告①
	前 期	後 期																																																																			
第1回	関連論文文献研究と発表①	第1回	修士論文第1章報告①																																																																		
第2回	関連論文文献研究と発表②	第2回	修士論文第1章報告②																																																																		
第3回	関連論文文献研究と発表③	第3回	修士論文第2章報告①																																																																		
第4回	関連論文文献研究と発表④	第4回	修士論文第2章報告②																																																																		
第5回	関連論文文献研究と発表⑤	第5回	修士論文第3章報告①																																																																		
第6回	テーマ選定と中間発表	第6回	修士論文第3章報告②																																																																		
第7回	関連論文文献研究と発表⑥	第7回	修士論文第4章報告①																																																																		
第8回	関連論文文献研究と発表⑦	第8回	修士論文第4章報告②																																																																		
第9回	関連論文文献研究と発表⑧	第9回	中間報告																																																																		
第10回	関連論文文献研究と発表⑨	第10回	修士論文結論報告①																																																																		
第11回	関連論文文献研究と発表⑩	第11回	修士論文結論報告②																																																																		
第12回	修士論文章立て	第12回	修士論文の全体構成確認①																																																																		
第13回	修士論文章立てとクローキー	第13回	修士論文の全体構成確認②																																																																		
第14回	修士論文章立てと具体例	第14回	修士論文の校正																																																																		
第15回	修士論文の構成	第15回	修士論文結論報告①																																																																		



科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：金城 亮	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II			メールアドレス：a.kinjo@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	研314	火曜4限・木曜2限

### 1. 授業の概要

本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。当分野の研究演習Ⅰを履修済みであることを前提としている。本演習では研究演習Ⅰにおいて設定したテーマと予備分析に基づき、実証科学的アプローチによってデータを収集・分析し、修士論文にまとめることを課題とする。また、研究成果について少なくとも3回の報告発表（テーマ発表・中間発表・最終発表）を義務づける。

### 2. 到達目標

産業・組織心理学分野に独自の研究知見を提供しうる修士論文を執筆する。

### 3. 授業の計画と内容

第1週	研究計画①：研究テーマ	第16週	結果の解釈・考察①
第2週	研究計画②：研究の背景と目的	第17週	結果の解釈・考察②
第3週	研究計画③：仮説の設定	第18週	修士論文まとめ
第4週	研究計画④：研究方法（手続き）	第19週	修士論文まとめ
第5週	研究計画⑤：研究方法（要因計画／尺度）	第20週	修士論文まとめ
第6週	本実験／本調査実施	第21週	修士論文まとめ
第7週	本実験／本調査実施	第22週	修士論文まとめ
第8週	本実験／本調査実施	第23週	今後の課題検討
第9週	本実験／本調査実施	第24週	今後の課題検討
第10週	データ入力・集計①	第25週	卒業論文提出
第11週	データ入力・集計②	第26週	審査・報告会準備（要旨作成）
第12週	統計分析①	第27週	審査・報告会準備（プレゼン資料作成）
第13週	統計分析②	第28週	審査・報告会準備（プレゼン資料作成）
第14週	図表作成①	第29週	修士論文審査・報告会
第15週	図表作成②	第30週	総まとめ

### 4. テキスト

研究テーマに応じて適宜指定

#### 参考文献

研究領域に応じて適宜指定

### 5. 準備学習

自身の研究テーマに沿った先行研究の収集、講読を十分に行うこと。

### 6. 成績評価の方法

①ゼミ研究活動状況：	20点
②口頭発表報告：	30点
③修士論文：	50点
計	100点

### 7. 履修の条件：

経営情報研究演習Ⅰ（産業・組織心理学領域）の単位を修得済みであること。

### 8. その他

演習生には、受動的な研究姿勢に留まることなく、自らの問題意識、研究テーマの解明に向けて主体的・積極的に取り組んでいただきたい。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：中里 収	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II			メールアドレス：s.nakazato@mail.meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	312	火曜・木曜 3限 (13:00～14:30)

### 1. 授業の概要

本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといった、コミュニケーションに関する現象を扱う。コミュニケーションシステムの開発を題材にして、研究方法や論文執筆の手順を習得する。前半はシステム設計、システム評価実験などの演習を行い、後半は修士論文の執筆法を演習する。

### 2. 到達目標

音声対話研究の基礎知識を身に付ける。  
研究者に必要な技能を身に付ける。

### 3. 授業の計画と内容

前学期	後学期
第1週 オリエンテーション	第1週 オリエンテーション・研究計画
第2週 システム設計法	第2週 論文執筆方法
第3週 //	第3週 //
第4週 プログラミング方法	第4週 //
第5週 //	第5週 //
第6週 //	第6週 //
第7週 システム評価	第7週 //
第8週 //	第8週 プレゼンテーション
第9週 実験計画法	第9週 論文執筆方法
第10週 //	第10週 //
第11週 評価実験	第11週 //
第12週 //	第12週 //
第13週 データ処理法	第13週 //
第14週 //	第14週 プレゼンテーション
第15週 //	第15週 //

### 4. テキスト

講義の中で資料を配布する。

#### 参考文献

堂下 修司 他 「音声による人間と機械の対話」 オーム社 (4500円)  
田窪行則 他 「言語の科学2 音声」 岩波書店 (3800円)

### 5. 準備学習

自分の修士論文研究の進捗状況を説明できるようにしておくこと。

### 6. 成績評価の方法

修士論文内容 (80点) 口頭発表内容 (20点) で評価する。

### 7. 履修の条件

原則として、経営情報研究演習Ⅰからの継続である。

### 8. その他

特になし

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：木村 堅一	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information SciencesⅡ.			メールアドレス：k.kimura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	310	月曜日 3時限目 火曜日 3時限目

### 1. 授業の概要

本演習は、経営情報研究演習Ⅰ（木村担当）に引き続き、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。

### 2. 到達目標

社会心理学的な研究を行う上で必要な方法論に関する基本的な知識と技能を理解できる。  
自らの修士論文における研究計画の実行・文章化において、得られた知識を活用できる。

### 3. 授業の計画と内容

	前期	後期
第1週	各自の研究実績の紹介	修士論文の概要作成(1)
第2週	関連する先行研究の紹介(1)	“(2)
第3週	“(2)	“(3)
第4週	“(3)	報告会リハーサル(1)
第5週	“(4)	“(2)
第6週	“(5)	論文コメントと修正(1)
第7週	問題の再構成(1)	“(2)
第8週	“(2)	“(3)
第9週	“(3)	“(4)
第10週	“(4)	“(5)
第11週	“(5)	論文コメントと修正(1)
第12週	追加的な研究計画(1)	“(2)
第13週	“(2)	“(3)
第14週	“(3)	“(4)
第15週	“(4)	“(5)

### 4. テキスト・参考文献

適宜、紹介する。

### 5. 準備学習

日頃から、自らの興味・関心あるテーマについて問題意識を深めておくこと。  
先行文献の収集・整理を行い、先行研究の成果や問題点をレビューしておくこと。  
研究計画を具体化すること。  
予備調査・予備実験のデータを分析しておくこと。

### 6. 成績評価方法

- ・論文本体(50点)
- ・発表会(50点)
- ・合計(100点)

### 7. 履修の条件

「経営情報研究演習Ⅰ」の単位取得者であり、指導の可否を担当教員から事前に承諾を受けた者に限る。

### 8. その他

特になし。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：仲尾次 洋子	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information II			メールアドレス：y.nakaoji@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	若干名	302	火2限・木2限

1. 授業の概要

本演習では、研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みをベースに修士論文を作成する。

2. 到達目標

修士論文について、明確なストーリーラインと客観的な裏付けに基づく結論を見出すこと。

3. 講義予定

前学期		後学期	
第1週	オリエンテーション	第1週	論文再構成
第2週	論文の進捗確認	第2週	論文作成
第3週	論文作成	第3週	〃
第4週	〃	第4週	〃
第5週	〃	第5週	〃
第6週	〃	第6週	〃
第7週	〃	第7週	〃
第8週	〃	第8週	〃
第9週	〃	第9週	〃
第10週	〃	第10週	〃
第11週	〃	第11週	〃
第12週	〃	第12週	最終発表の準備
第13週	中間発表の準備	第13週	〃
第14週	〃	第14週	〃
第15週	前期の総括	第15週	総括

4. テキスト・参考文献

適宜指示する。

5. 準備学習

研究計画に沿って毎回報告できる準備を行うこと。

6. 成績評価の方法

活動状況 20点

研究成果 80点

7. 履修の条件

原則として、経営情報研究演習Ⅰからの継続である。

8. その他

特になし。

科目名	経営活動情報特論			担当教員：田邊 勝義							
科目名(英語)	Advanced Lecture in Information Management Activities			メールアドレス：k.tanabe@meio-u.ac.jp							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	後期	6	307	木曜日：13:00～14:30 金曜日：13:00～14:30						
<p>1. 講義の概要</p> <p>情報化社会における企業経営のかかえる課題と解決策を考察する。毎回ある課題をとりあげ、その課題に関する資料を講読してまとめを発表し、意見交換する形式および最近のトピックの中から選定した題材を調べ、発表し意見交換する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>情報化社会における経営活動の変化を絶えず推し進めてくる大きな力を感じ取り、それが動いていく方向を読み取る目を養う。伝統的な理論に対し疑問点を見つけ、自分なりの切り口や独自性を出した理論を考える姿勢を身につける。</p> <p>3. 講義の計画と内容</p> <p>第1週 オリエンテーション  第2週 情報経済社会  第3週 コンピュータの歴史  第4週 電子取引とBTO (Built to Order)  第5週 マルチメディアと生活  第6週 マルチメディアとビジネス  第7週 データベースマーケティング  第8週 ビジネスインテリジェント (データマイニング)  第9週 ネット広告  第10週 広告ターゲティング  第11週 RFID (Radio Frequency Identification)  第12週 センサーネットワーク  第13週 クラウド・コンピューティング  第14週 ビジネスモデル特許  第15週 まとめ・課題レポート</p> <p>4. テキスト</p> <p>ポーター博士の競争戦略の授業 かんき出版 (1600円+税)</p> <p>参考文献  適宜指示する。  図解「通販業界ハンドブック」、店舗システム協会、(1600円+税)</p> <p>5. 準備学習</p> <p>事前に指示したテキストや資料について受講者で担当するページを分担し、担当部分についてよく読んで、レジメ or プレゼン資料を作成してくる。</p> <p>6. 成績評価の方法 (明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>課題レポートと報告発表</td> <td style="text-align: right;">60点</td> </tr> <tr> <td>活動状況 (ディスカッション、参加積極性等)</td> <td style="text-align: right;">40点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件：  特になし</p> <p>8. その他</p> <p>授業は、事前に指示したテキスト、資料や最近のトピックの中から選定した題材について予め調べ、その内容を発表し、ディスカッションする形式をとる。</p>						課題レポートと報告発表	60点	活動状況 (ディスカッション、参加積極性等)	40点	合計	100点
課題レポートと報告発表	60点										
活動状況 (ディスカッション、参加積極性等)	40点										
合計	100点										

科目名	地域活性化特論			担当教員：宮平 栄治	
科目名(英語)	Regional Vitalization Studies			メールアドレス：s.miyahira@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後	2～3	315	火・木 14：45～16：15

### 1. 授業の概要

沖縄県は島嶼県であり、地域活性化においても他地域とは異なる手法が必要である。そのため沖縄県においては一般的な地域活性化策を踏まえ沖縄県の特性を加味した地域活性のあり方が必要である。本講義においては、前述の沖縄県の地域特性を踏まえつつ、地域概念と活性化概念について経済理論、マーケティング論およびわが国や諸外国の地域活性化策の推移から把握し、地域活性化についての概念と目標を確定する。確定後は、事例研究をとおして地域活性化においては、その地域を持つ地域資源の発見と商品化と産業化の必要性を理解する。商品化と産業化における比較優位性理論とマーケティングによる販売促進の重要性を学ぶ。また、地域活性化の担い手としての官・民・企業およびNPOの目標の共有化、リスク分散と協業の必要性を理解することである。

### 2. 到達目標

地域概念、活性化概念、内発的発展論と外発的発展論など地域活性化に必要な知識を学ぶ。

### 3. 講義予定

- 第1週 地域概念—国際経済と国内経済の比較から—
- 第2週 地域経済の主体と地域活性を見る視点
- 第3週 経済発展できない理由—経路依存性、不完全な情報と複雑性、インフォーマルな制度の漸進性
- 第4週 輸入代替
- 第5週 経済自立と自律
- 第6週 IS分析
- 第7週 産業連関分析
- 第8週 クラスタモデル
- 第9週 ハロッド・モデル
- 第10週 内発的発展理論と外発的発展理論
- 第11週 ブランド化
- 第12週 地域ブランド化
- 第13週 コミュニティビジネス、農商工連携など
- 第14週 地域活性化例①—東京都三鷹市、北海道伊達市、ニセコ町
- 第15週 地域活性化例②—沖縄県

### 4. テキスト

適宜、資料を配布する予定である。

#### 参考書

- (1) ジェイン・ジェイコブス著 中村達也訳『発展する地域衰退する地域』(筑摩書房 2012年)
- (2) 山浦晴男著『住民・行政・NPO協働で進める最新地域再生マニュアル』(朝日新聞出版 2010年)
- (3) 西村幸夫・野澤康編『まちの見方・調べ方—地域づくりのための調査法入門—』(朝倉書店 2010年)

### 5. 準備学習

上記の参考書の他、『日本経済新聞』等を読み、地域経済の実情を把握するように。

### 6. 評価方法

- ① 講義中における口頭発表およびディスカッション
  - ② 適宜行なうレポート
  - ③ 適宜行なう小テスト
- 以上の合計点で評価する。

### 7. 履修条件

口頭発表の際は、レジュメを用意する。

### 8. その他

特になし。

科目名	経営戦略特論			担当教員：林 優子	
科目名(英語)	Management Strategy			メールアドレス：y.hayashi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1, 2	前	6	308	月2限、木2限

### 1. 授業の概要

この講義では、基本的な経営戦略に関する理論を体系的に理解することを目的として進めていく。企業を取り巻く環境は常に変化し続けているため、その中での採るべき戦略も変化・進化をしていると考えられる。そこで基本的な論点を踏まえながら、企業競争や企業革新を遂げていくための戦略とはどのようなものかを研究していく。

### 2. 到達目標

経営戦略論の理論的発展の経緯をはじめとして、企業事例を通して企業競争や革新的な展開について理解と分析ができる。

### 3. 授業の計画と内容

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 経営戦略とは①
- 第3週 経営戦略とは②
- 第4週 競争戦略①
- 第5週 競争戦略②
- 第6週 事業システム戦略
- 第7週 ドメイン定義・次元
- 第8週 経営資源展開の戦略①
- 第9週 経営資源展開の戦略②
- 第10週 経営資源展開の戦略③
- 第11週 経営戦略と組織①
- 第12週 経営戦略と組織②
- 第13週 企業文化
- 第14週 知識創造①
- 第15週 知識創造②

### 4. テキスト

オリエンテーション時に受講学生との相談によって決定する。そのため、講義予定が変更になることもある。

#### 参考文献

石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論（新版）』2002年（有斐閣）3,150円  
M. E. ポーター著土岐坤・中辻萬治・小野寺武夫訳『競争優位の戦略』1985年（ダイヤモンド社）8,190円  
など、ただし、必要に応じて紹介していく。

### 5. 準備学習

本講義は、基本的に受講学生によるプレゼンテーションを中心に行うため、与えられたテーマに沿って必要な情報収集や、事前準備は行うこと。

### 6. 成績評価の方法（明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。）

プレゼンテーション（レジュメ提出含む）	75点
レポート	25点
合計	100点

### 7. 履修の条件：<履修の順序（Sequence）又は、履修にあたって前提条件とする科目（単位修得済科目）等があればこの欄に記入すること。>

特になし

### 8. その他

科目名	ネットワーク産業特論			担当教員:宮平 栄治	
科目名(英語)	Networking Industry			メールアドレス: <a href="mailto:s.miyahira@meio-u.ac.jp">s.miyahira@meio-u.ac.jp</a>	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前	2～3	315	火・木 14:45～16:15

### 1. 授業の概要

この講義では、情報時代における市場、産業および企業の特徴、企業戦略と産業育成、誘致および連携に関して、経済学の諸原理を援用させながら、市場、産業および企業を考察する。

### 2. 到達目標

経済が円滑に運営されるためには、組織化と費用軽減が必要となる。費用には、明示化できる費用と明示化できない費用がある。明示化できない費用には、機会費用、埋没費用、取引費用や関係資産性がある。これらの費用が、企業の内部組織化と外部組織化を決定する。外部組織化の一つの形態がネットワーク産業である。この講義では、企業の内部化と外部化の基礎理論を学ぶ。

### 3. 講義予定

- 第1週 なぜ企業が存在するのか
- 第2週 市場と企業の分析①ー諸理論の紹介ー
- 第3週 市場と企業の分析②ー取引コスト理論とその限界
- 第4週 市場と企業の分析③ーエージェンシー理論とその限界ー
- 第5週 市場と企業の分析④ー固体群生態学理論とその限界
- 第6週 市場と企業の分析⑤ー制度化理論とその限界ー
- 第7週 市場と企業の分析⑥ーコンティジェンシー理論とその限界ー
- 第8週 市場と企業の分析⑦ー組織学習理論とその限界ー
- 第9週 貨幣在庫理論とその援用①ー貨幣在庫理論とはー
- 第10週 貨幣在庫理論とその援用②ー貨幣在庫理論と取引費用ー
- 第11週 検索失業理論とその援用①ー統計学の基礎ー
- 第12週 検索失業理論とその援用②ーモデル展開ー
- 第13週 通行料モデルとその援用①
- 第14週 通行料モデルとその援用②
- 第15週 レントシーキング

### 4. テキスト

適宜、資料を配布する予定である。

#### 参考書

- (1) R.J.バロー著 谷内 満訳「マクロ経済学」(多賀出版 1987年)
- (2) スマトラ・ゴジャール/D.エレナ・ウエストニー編著 江夏健一監訳「組織理論と多国籍企業」(文眞堂 1998年)
- (3) 柳川範之著「契約と組織の経済学」(東洋経済新報社 2000年)
- (4) 佐々木広夫著「情報の経済学」(日本評論社 1991年)
- (5) ロナルド・H・コース著 宮沢健一/後藤晃/藤垣芳文訳「企業・市場・法」(東洋経済新報社 1992年)

### 5. 準備学習

上記の参考書の他、マイケル・ポーターの著作や経営戦略論の基本書を事前に読む。

### 6. 評価方法

- ① 講義中における口頭発表およびディスカッション
  - ② 適宜行なうレポート
  - ③ 適宜行なう小テスト
- 以上の合計点で評価する。

### 7. 履修条件

口頭発表の際は、レジюмеを用意する。

### 8. その他

特になし。



科目名	情報交流特論			担当教員：中里 収	
科目名(英語)	Information Interaction			メールアドレス：s.nakazato@mail.meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	3	312	火曜・木曜 3限 (13:00～14:30)

#### 1. 授業の概要

本講では、人間同士の音声対話および人とコンピュータとの音声対話について研究する。  
前半は文献購読を中心に、対話に関する理論やコンピュータでデータを処理する方法を学習する。  
後半は、分析のテーマを設定し、実際に対話データを収集・分析してみる。  
人が対話している場面で、音声情報や視覚情報がどのように利用されているかを研究する。

#### 2. 到達目標

音声対話研究の基礎知識を身に付ける。  
研究に必要な「文献検索」、「データ処理」、「プレゼンテーション技法」を身に付ける。

#### 3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション・研究計画
- 第 2 週 「話し言葉」と「書き言葉」の研究について
- 第 3 週 コンピュータと音声 1・音声の物理的特徴
- 第 4 週 コンピュータと音声 2・音素音節について
- 第 5 週 コンピュータと音声 3・音声認識システムのしくみ
- 第 6 週 コンピュータと音声 4・音声対話の特徴
- 第 7 週 コンピュータと音声 5・音声言語処理
- 第 8 週 文献研究
- 第 9 週 //
- 第 10 週 対話データの収集方法
- 第 11 週 //
- 第 12 週 対話データの処理方法
- 第 13 週 //
- 第 14 週 プレゼンテーション(成果発表)
- 第 15 週 //

#### 4. テキスト

講義の中で資料を配布する。

##### 参考文献

- |            |             |         |          |
|------------|-------------|---------|----------|
| 海保博之 原田悦子  | 「プロトコル分析入門」 | 新曜社     | (2500 円) |
| 泉子・K・メイナード | 「会話分析」      | くろしお出版  | (4300 円) |
| 石崎雅人・伝康晴   | 「談話と対話」     | 東京大学出版会 | (3800 円) |

#### 5. 準備学習

自分の修士論文のテーマを他人に説明できるようにしておくこと。

#### 6. 成績評価の方法

レポート課題 (50 点) 発表内容 (50 点) で評価する。

#### 7. 履修の条件

特になし。プログラミングと英文購読の経験があることが望ましい。

#### 8. その他

特になし

科目名	小集団心理学特論			担当教員：金城 亮	
科目名(英語)	Psychology of Small Groups			メールアドレス：a.kinjo@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	6	研314	火曜4限・木曜2限

### 1. 授業の概要

本特論では、集団、特に継続的な対面的相互作用のある「小集団」のダイナミックスに焦点をあてた議論を展開する。講義計画の前半では、小集団のグループ・ダイナミックス研究において、重要な諸変数を扱った研究事例をレビューする。後半はクラスで選定したテーマに沿って、実際の研究計画を策定し、データ収集ならびに統計分析を行なう演習を実施する。それらを通して、効果的な集団活動のあり方について検討する。

### 2. 到達目標

小集団心理学研究領域における基礎的研究事例を理解するとともに、そこで用いられた研究手法を活用・応用して実際の小集団過程に関するデータを収集し、分析・考察ができるようになる。

### 3. 授業の計画と内容

- 第1週 オリエンテーション：小集団研究の意義と目的
- 第2週 小集団研究の方法
- 第3週 研究事例検討Ⅰ
- 第4週 研究事例検討Ⅱ
- 第5週 研究事例検討Ⅲ
- 第6週 研究事例検討Ⅳ
- 第7週 研究事例検討Ⅴ
- 第8週 課題演習Ⅰ：研究テーマの選定
- 第9週 課題演習Ⅱ：研究計画
- 第10週 課題演習Ⅲ：研究手続きの検討、実施準備
- 第11週 データ収集Ⅰ（実験／調査／観察）
- 第12週 データ収集Ⅱ（実験／調査／観察）
- 第13週 データ集計と統計分析
- 第14週 考察、研究報告書作成
- 第15週 研究報告書提出・ディスカッション

### 4. テキスト

斎藤勇 編（1987）『対人社会心理学重要研究集1－社会的勢力と集団組織の心理－』 誠信書房

#### 参考文献

A. Zander 著 黒川正流・金川智恵・坂田桐子 訳 1996 『集団を活かす』 北大路書房  
その他、適宜指定

### 5. 準備学習

初回講義において分担する研究事例について、テキストのみならず第一次資料や関連文献にもあたりつつ理解を深めて発表報告に臨むこと。

### 6. 成績評価の方法

- ①研究事例報告における分担発表：30点
- ②課題研究における活動状況：20点
- ③研究報告書：50点
- 計 100点

### 7. 履修の条件：

特になし。

### 8. その他

- ・自主的・自立的な参加を求める。
- ・演習課題は講義時間以外の時間も利用してデータ収集、分析を行なうことになる。他の受講生と協力しながら共同研究を進めることのできる協調的な姿勢も要求される。

科目名	人的資源管理特論			担当教員：金城 亮	
科目名(英語)	Human Resource Management			メールアドレス： a.kinjo@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	6	研314	火曜4限・木曜2限

### 1. 授業の概要

この講義科目では、人的資源をいかに管理するかというテーマに関して、人的資源管理論および組織行動論の見地から問題を発見・考察すると同時に、効果的な管理方法を学習する。さらに産業組織心理学の知見に基づき、ワーク・モチベーションや組織コミットメントなど被雇用者の観点からみた人的資源管理の課題を検討する。また、組織の情報化に伴って変化しつつある人事情報管理についても考察を深める。

### 2. 到達目標

多様化しつつある雇用・労働環境のもとで、効果的な人的資源管理を行うための方法論について考察し、実践上の課題について分析評価することができるようになる。

### 3. 授業の計画と内容

- 第1週 オリエンテーション：人的資源管理の特徴
- 第2週 組織の論理①：人的資源管理の課題
- 第3週 組織の論理②：雇用制度と賃金制度の変化
- 第4週 組織の論理③：能力開発と教育訓練
- 第5週 組織の論理④：人的資源管理とジェンダー
- 第6週 組織の論理⑤：管理職者のリーダーシップとその効果
- 第7週 被雇用者の観点①：働くことの意味とキャリア発達
- 第8週 被雇用者の観点②：働くことへの動機づけ
- 第9週 被雇用者の観点③：組織コミットメント
- 第10週 被雇用者の観点④：新規就職者の組織適応と態度変容
- 第11週 被雇用者の観点⑤：サイバー就職コミュニティと就職活動
- 第12週 人的資源管理における情報化①：情報・知識共有
- 第13週 人的資源管理における情報化②：人事情報管理
- 第14週 ディスカッション：人的資源管理
- 第15週 まとめ・課題レポート

### 4. テキスト

適宜指定する。

#### 参考文献

- 岩内亮一・梶原 豊 2004 現代の人的資源管理 学文社
- 山下洋史 2006 情報化時代の人的資源管理 東京経済情報出版
- 田尾雅夫 1999 組織の心理学〔新版〕 有斐閣ブックス

### 5. 準備学習

雇用する側と雇用される側の両方の視点から人的資源管理の問題を俯瞰し考察しつつ授業に参加すること。

### 6. 成績評価の方法

- ①講義参加・報告発表：30点
- ②課題レポート：70点
- 計 100点

### 7. 履修の条件：

特になし。

### 8. その他

担当講師からの一方的な講義とならぬよう、課題研究の報告、ディスカッション等を交えながら進めていきたい。

科目名	比較経営学特論			担当教員：宮城 敏郎	
科目名(英語)	Comparative Management			メールアドレス：t.miyagi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1.2	後期	2~3	204	月曜日 14:50~16:30

### 1. 授業の概要

経営学は企業の戦略・組織・行動を分析する際に、企業の経済的合理性すなわち企業の目的は利潤の追求であるという「資本の理論」を軸に分析してきた。たとえば、R.H.コースは「企業と市場」論において企業は取引費用を節約するために市場でなされていた取引を組織化したと述べた。また、O.E.ウイリアムは階層的組織の優位性が市場メカニズムより優れている点を挙げ、A.D.チャンドラーは近代大企業の成立と発展において内部組織が市場メカニズムより優越していることを歴史的分析によって明らかにした。しかし、比較制度分析の視点に立てば、アングロ・アメリカン・モデルが唯一無二の最適組織とは言えない。経済システムには多様性があり、歴史的経路と社会の制度体系に依存することは明らかである。

本講義では企業・市場（経済システム）・社会システムという総合的視点と比較経営学的視点に立ち、各国の企業組織について考察していく。

### 2. 到達目標

比較経営学を通して異なった国家や文化の中でビジネスが発展するにあたって、何が普遍的であり、何が特殊であるのかを考える力を養う。

### 3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 比較経営学の課題と方法 1
- 第 3 週 比較経営学の課題と方法 2
- 第 4 週 変化する制度レジームとビジネスシステム
- 第 5 週 アメリカ企業社会とステイクホルダー論
- 第 6 週 変貌するアメリカ企業と社会
- 第 7 週 中国の社会主義市場経済体制と国有企業の再編
- 第 8 週 EU 社会の変貌と企業
- 第 9 週 ロシアにおける企業社会の変貌
- 第 10 週 日本のコーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任
- 第 11 週 コーポレート・ガバナンスから見た企業と社会
- 第 12 週 社会的ネットワークから見た企業と社会
- 第 13 週 グローバル化における企業と社会
- 第 14 週 持続可能な発展と企業経営
- 第 15 週 現代企業社会の行方

### 4. テキスト

日本比較経営学会編『会社と社会比較経営学のすすめ』文理閣、2006年 価格 3150円

#### 参考文献

太田正孝『多国籍企業と異文化マネジメント』同文館出版、平成 20 年 価格 3675円

### 5. 準備学習

経済学・経営学の基本概念を押さえておくこと。

### 6. 成績評価の方法（明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。）

発表（30点）＋ディスカッション（30点）＋課題レポート（40点）

### 7. 履修の条件：＜履修の順序（Sequence）又は履修にあたって前提条件とする科目（単位修得済科目）等があればこの欄に記入すること。＞

### 8. その他

科目名	e-ビジネス特論			担当教員：田邊 勝義							
科目名(英語)	Advanced Lecture in e-Business			メールアドレス：k.tanabe@meio-u.ac.jp							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	前期	6名	307	木曜日：13:00～14:30 金曜日：13:00～14:30						
<p>1. 講義の概要</p> <p>インターネットをインフラとしたビジネスが一般化してきており、ビジネスの形態が変わってきた。本講義では、インターネットビジネスの基礎からオンライン・ビジネスへの参入方法、Webマーケティング、e-ビジネス、e-コマースの背景にあるテクノロジー等を学ぶと共に、インターネットにおけるビジネスモデルについて考察していく。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>e-ビジネスの現状と課題を理解する。課題が起きている要因の分析、および解決案の検討を自ら出来るようにする。</p> <p>3. 講義の計画と内容</p> <p>第1週 オリエンテーション  第2週 インターネットビジネス入門  第3週 オンライン・ビジネスの準備  第4週 テクノロジー  第5週 訴訟問題  第6週 Webマーケティング戦略  第7週 検索エンジン  第8週 ショッピングとORM (Operation Resource Management) ソリューション  第9週 インタラクティブ・コミュニケーション  第10週 Webテクノロジー  第11週 セキュリティ  第12週 ネット上の画像・映像  第13週 ネットでの支払い  第14週 オープンソース  第15週 まとめ・課題レポート</p> <p>4. テキスト</p> <p>よくわかる Web&amp;モバイルマーケティングの教科書 マイナビ (2400円+税)</p> <p>参考文献  適宜指示する。  The e-Business Revolution (2nd Edition), Daniel Amor 著、  デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム編、「ネット広告ハンドブック」、日本能率協会マネジメントセンター  (1890円+税)</p> <p>5. 準備学習</p> <p>事前に指示したテキストや資料について受講者で担当するページを分担し、担当部分についてよく読んで、レジュメ or プレゼン資料を作成してくる。</p> <p>6. 成績評価の方法 (明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。)</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>課題レポートと報告発表</td> <td style="text-align: right;">60点</td> </tr> <tr> <td>活動状況 (ディスカッション、参加積極性等)</td> <td style="text-align: right;">40点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件：  特になし</p> <p>8. その他</p> <p>授業は、事前に指示したテキスト、資料や最近のトピックの中から選定した題材について予め調べ、その内容を発表し、ディスカッションする形式をとる。</p>						課題レポートと報告発表	60点	活動状況 (ディスカッション、参加積極性等)	40点	合計	100点
課題レポートと報告発表	60点										
活動状況 (ディスカッション、参加積極性等)	40点										
合計	100点										

科目名	情報知能特論			担当教員：アリ, ファテヘルアリム F. メールアドレス：ali@meio-u.ac.jp	
科目名(英語)	Information Intelligence				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	4	313	火：10：40～12：10

#### 1. 授業の概要

計算機による知識情報処理の基本的考え方, 方法論, 応用, 更にその論文等の読みとまとめについて学ぶ。

#### 2. 到達目標

計算知能の実用化と技術について学び, 応用の事例に検討する

#### 3. 授業の計画と内容

- 第1週 計算知能 (Computational Intelligence) とは
- 第2週 ソフトコンピューティング
- 第3週 ソフトコンピューティング
- 第4週 ニューラルネット
- 第5週 ニューラルネット
- 第6週 ニューラルネット
- 第7週 遺伝的アルゴリズム
- 第8週 遺伝的アルゴリズム
- 第9週 進化プログラミング
- 第10週 ファジイ推論とファジイ制御
- 第11週 ファジイ推論とファジイ制御
- 第12週 計算知能の実用化応用技術
- 第13週 計算知能の実用化応用技術
- 第14週 計算知能の実用化応用技術
- 第15週 計算知能の実用化論文のまとめ

#### 4. テキスト

別紙に記載

##### 参考文献

**IT Text 人工知能、松本・宮原・永井(共著)、オーム社**

Amit Konar - Computational Intelligence: Principles, Techniques, and Applications (2005)

#### 5. 準備学習

#### 6. 成績評価の方法

- 課題・学習態度 50点
- 期末レポート 50点
- 合計100点

#### 7. 履修の条件:

特になし. プログラミングと英文購読の経験があることが望ましい。

#### 8. その他

科目名	会計学特論			担当教員：仲尾次 洋子	
科目名(英語)	Advanced Accounting			メールアドレス：y.nakaoji@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	若干名	302	火曜日・木曜日2限

#### 1. 講義内容

企業活動や投資活動のグローバル化に伴い、企業の業績を国際的に比較可能にするためのグローバルスタンダードとして **IFRS** (国際財務報告基準) の導入が必要とされている。本講義では、**IFRS** を念頭に置きながら、英文財務諸表の読み方について学び、財務諸表分析のケーススタディを行う。

#### 2. 到達目標

グローバルな企業評価の基礎を習得する。

#### 3. 授業計画と内容

- 第 1 週 インTRODakション
- 第 2 週 Balance Sheet の読み方①
- 第 3 週 Balance Sheet の読み方②
- 第 4 週 Income Statement の読み方①
- 第 5 週 Income Statement の読み方②
- 第 6 週 Cash Flow Statement の読み方
- 第 7 週 収益性の分析
- 第 8 週 効率性の分析
- 第 9 週 安全性の分析
- 第 10 週 成長性の分析
- 第 11 週 総合力の分析
- 第 12 週 ケーススタディ①
- 第 13 週 ケーススタディ②
- 第 14 週 ケーススタディ③
- 第 15 週 まとめ

#### 4. テキスト・参考文献

適宜指示する。

#### 5. 準備学習

適宜テキストの要約や事例研究の紹介を指示するので、これに関する準備学習を行うこと

#### 6. 成績評価の方法

活動状況	50点
課題	50点
合計	100点

#### 7. 履修の条件

簿記の基本的知識を有すること。

#### 8. その他

特になし。

科目名	国際マーケティング特論			担当教員：平敷 徹男 (学外)																																														
科目名(英語)	International Marketing			メールアドレス： heshikite@yahoo.co.jp																																														
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																													
2	1・2	集中講義 (後期)	2～3	非常勤講師 控室	期間中都度、講義終了後																																													
<p>1. 授業の概要</p> <p>本講の主眼は、マーケティング概念の理解をもとに、ボーダーレスに展開されるマーケティング問題の考察にある。否応なく、国際競争に巻き込まれるグローバル化時代における各種組織のマーケティング問題を実践に即しつつ、理論的・体系的に学ぶ。文化、経済、政治的環境等々国内マーケティングと違う複雑な環境下におけるマーケティングの展開を国・地域間の共生を視野に入れて考えてみたい。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>マーケティング環境分析 (SWOT, 3C分析等)、STP、4C等のマーケティング用語になじみ、マーケティング・コンセプトおよびマーケティング戦略体系を一通り把握し、国内・国外における戦略展開の相違を理解する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p style="margin-left: 20px;">1回3コマ相当</p> <table style="margin-left: 40px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第1週</td> <td rowspan="3" style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">}</td> <td rowspan="3" style="padding-left: 10px;">1回目 講義紹介</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第2週</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第3週</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第4週</td> <td rowspan="2" style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="padding-left: 10px;">国際マーケティングの基礎 (マーケティングとは?)</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第5週</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第6週</td> <td rowspan="2" style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="padding-left: 10px;">経営戦略と国際マーケティング</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第7週</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第8週</td> <td rowspan="2" style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="padding-left: 10px;">2回目 国際マーケティング環境</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第9週</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第10週</td> <td rowspan="2" style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="padding-left: 10px;">国際マーケティング機会の探索</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第11週</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第12週</td> <td rowspan="2" style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="padding-left: 10px;">3回目 国際市場進出戦略</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第13週</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第14週</td> <td rowspan="2" style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="padding-left: 10px;">国際製品戦略</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第15週</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第16週</td> <td rowspan="2" style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="padding-left: 10px;">4回目 国際価格戦略</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第17週</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第18週</td> <td rowspan="2" style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="padding-left: 10px;">国際流通戦略</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第19週</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第20週</td> <td rowspan="2" style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="padding-left: 10px;">5回目 国際プロモーション戦略</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第21週</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第22週</td> <td rowspan="2" style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="padding-left: 10px;">国際マーケティングの将来展望</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">第23週</td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>テキスト： 特定のテキストはありません。教材は講義の際に配布します。</p> <p>参考文献： 田内幸一・堀出一郎編著『国際マーケティング』中央経済社。  諸上茂登・藤沢武史『グローバル・マーケティング』中央経済社。  パンカジ・ゲマワット『コークの味は国ごとに違うべきか』文芸春秋。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>小レポートとの関連もあるが、海外展開をしている企業 (例：ユニクロ、H&amp;M) 商品の海外市場での戦略を日常的に観察してもらいたい。(商品の品揃え、陳列、価格、情報伝達方法 (店頭やメディアCM) 等々)</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>① 講義での発表・質疑・討論への参加の程度 (70点)</p> <p>(大学院は発表とその後の質疑・討論で学びあう場であり、毎回の積極的な発言・参加は必須です。)</p> <p>② 小レポート (30点)：海外展開している企業のマーケティング事例レポート。海外展開をしている企業を事例として取り上げ、当該企業が自国内で行っているマーケティング戦略と海外でのマーケティング戦略の相違についてレポートする。企業は海外展開している日本企業でも外国企業のいずれでもかまいません。</p> <p>(A4用紙ワープロ書きで図等を含めて5枚程度をメドとするが、枚数にはこだわらない。)</p> <p>提出締切日： 講義最終日から1週間以内。(提出方法はメール添付または郵送可)</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>必須ではないが、事前に1科目でもマーケティング関連科目を履修している方が望ましい。</p> <p>8. その他</p>						第1週	}	1回目 講義紹介	第2週	第3週	第4週	}	国際マーケティングの基礎 (マーケティングとは?)	第5週	第6週	}	経営戦略と国際マーケティング	第7週	第8週	}	2回目 国際マーケティング環境	第9週	第10週	}	国際マーケティング機会の探索	第11週	第12週	}	3回目 国際市場進出戦略	第13週	第14週	}	国際製品戦略	第15週	第16週	}	4回目 国際価格戦略	第17週	第18週	}	国際流通戦略	第19週	第20週	}	5回目 国際プロモーション戦略	第21週	第22週	}	国際マーケティングの将来展望	第23週
第1週	}	1回目 講義紹介																																																
第2週																																																		
第3週																																																		
第4週	}	国際マーケティングの基礎 (マーケティングとは?)																																																
第5週																																																		
第6週	}	経営戦略と国際マーケティング																																																
第7週																																																		
第8週	}	2回目 国際マーケティング環境																																																
第9週																																																		
第10週	}	国際マーケティング機会の探索																																																
第11週																																																		
第12週	}	3回目 国際市場進出戦略																																																
第13週																																																		
第14週	}	国際製品戦略																																																
第15週																																																		
第16週	}	4回目 国際価格戦略																																																
第17週																																																		
第18週	}	国際流通戦略																																																
第19週																																																		
第20週	}	5回目 国際プロモーション戦略																																																
第21週																																																		
第22週	}	国際マーケティングの将来展望																																																
第23週																																																		



科目名	システム・シンキング特論			担当教員: 宮平 栄治	
科目名(英語)	System Thinking			メールアドレス: <a href="mailto:s.miyahira@meio-u.ac.jp">s.miyahira@meio-u.ac.jp</a>	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2～3	315	火・木 14:45～16:15

### 1. 授業の概要

経済政策や経営戦略を行った場合、当初の計画では予期しない副作用、競争相手からの反撃などに遭遇する。そのような計画を行う際、ブレインストーミング法、KJ法やロジカルツリー等で十分検討したはずである。何故そのような意図しない結果が生ずるのかについて、我々の社会におけるフィードバック、相互依存、経路依存性やタイムラグなどの複雑な動きを加味したのがシステム・シンキングである。

### 2. 到達目標

社会動向が線形的ではなく、非線形的に推移することを学ぶ。具体的には、応急処置の失敗、問題の転嫁、成功の限界、目標のなし崩し、成長と投資不足、成功の連鎖、エスカレーション、共有地の悲劇を学ぶ。

### 3. 講義予定

- 第1週 集団的意志決定法
- 第2週 ブレインストーミング法、KJ法やロジカルツリー
- 第3週 ロジカル・シンキング
- 第4週 問題の定義
- 第5週 政策と副作用
- 第6週 戦略と意思決定
- 第7週 ロジカルツリー、要素間の因果関係および因果ループ
- 第8週 フィードバック、相互依存と経路依存性
- 第9週 システムとはーシステム3階層とメンタルモデルー
- 第10週 因果ループの3要素ーリンク、拡張・バランス・フィールドバック、タイムラグー
- 第11週 システムの原型ー応急処置、問題転嫁、好循環、エスカレーション、成功の限界ー
- 第12週 システムの特性ー非線形、相互作用、経路依存性、反直感的、介入反応、制約反応ー
- 第13週 システムの対処ー認識の共有、原因探求、中間インパクト、ボトルネックなどー
- 第14週 外部環境と内部環境、メンタルモデルとダブル・ループ学習
- 第15週 システム・シンキングの応用と限界

### 4. テキスト

西村行功著『システム・シンキング入門』（日本経済新聞社 2004年）

#### 参考書

- (1) John D. Sterman, Business Dynamics – System Thinking and Modeling for a Complex World, McGraw-Hill Higher Education 2000. 邦訳: 枝廣淳子・小田理一郎訳『システム思考ー複雑な問題の解決技法』（東洋経済新報社 2009年）
- (2) 茂木秀昭著『ロジカル・シンキング入門』（日本経済新聞社 2004年）
- (3) ダニエル・キム／バージニア・アンダーソン著 宮川雅明・川瀬誠訳『システム・シンキングトレーニングブック』（日本能率協会マネジメントセンター 2002年）

### 5. 準備学習

上記の参考書の他、『日本経済新聞』等を読み、地域経済の実情を把握するように。

### 6. 評価方法

- ① 講義中における口頭発表およびディスカッション
  - ② 適宜行なうレポート
  - ③ 適宜行なう小テスト
- 以上の合計点で評価する。

### 7. 履修条件

口頭発表の際は、レジュメを用意する。

### 8. その他

特になし。

科目名	情報・通信技術特論			担当教員：アリ, ファテヘルアリム F. メールアドレス：ali@meio-u.ac.jp	
科目名(英語)	Information and Telecommunication Technology				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	4	313	火：10：40～12：10

#### 1. 授業の概要

Theoretical and experimental design of telecommunication and data communication systems are discussed. Standards for systems and networks, and regulations governing various issues in telecommunication sectors are explained. Legal issues related to applications are also investigated.

#### 2. 到達目標

計算知能の実用化と技術について学び、応用の事例に検討する

#### 3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 Introduction to data and communication systems
- 第 2 週 Standards and role of related organizations
- 第 3 週 Radio communication and spectrum
- 第 4 週 Broadcast Communications
- 第 5 週 Broadcast Co
- 第 6 週 Wireless Communications
- 第 7 週 Wireless Communications
- 第 8 週 Modern Data Communications
- 第 9 週 Modern Data Communications 2
- 第 10 週 Communication Industry Culture
- 第 11 週 Legal issues
- 第 12 週 ICT Industry and Market
- 第 13 週 Regulations in Telecommunication Sector
- 第 14 週 Regulations in Telecommunication Sector
- 第 15 週 ICT Assignment

#### 4. テキスト

別紙に記載

##### 参考文献

1. .Com Master Advance, NTT communicationsNTT 出版, 2013
2. Computer Networks (5th Edition) by Andrew S. Tanenbaum and David J. Wetherall (2010)
3. Data Communications and Networking, Behrouz Forouzan, McGraw-Hill(2012)

#### 5. 準備学習

特になし.

#### 6. 成績評価の方法 (明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。)

課題・学習態度 (50点)・  
期末レポート (50点)。

#### 7. 履修の条件:

特になし。英文購読の経験があることが望ましい。

#### 8. その他